

明日の白根市をにう子どもたちの教育には全力投球で



心からお願ひ申し上げます。さて、私の六期目の市政は、去る一月二十七日からすでにスタートしているわけですが、県内初の六期目市長ということであり、五期目の単なる継続であってはなりません。無投票と

総合計画の見直しと着実な推進を

六選出馬声明の中で、私は市民のみならず、二つの基本課題と七つの重点施策に取り組むことを約束しました。基本課題の第一は、昭和六十年目標の「白根市総合計画」の着実な推進であり、第二は「地方の時代」にふさわしい自主性と特色のある市政を展開することであり、

「白根市総合計画」は、広く市民のみならずの意向を聞き、コンセンサスを求める中で、昭和四十六年議会の議決をいただいて策定した、私どもと市議会、それに市民のみならずの共同作品であり、昭和六十年までの白根市政推進の指針であります。この総合計画の目標が、昭和六十年であり、五十六年から勘定してみますと、私の六期目の任期の終わりが、総合計画の目標年次になります。そういう意味から、まずもって六期目の私に課せられた課題は、総合計画の着実な推進と、その目標を達成するために全力をあげる以外にないものもあり

はいえ、選挙による市民の意思の確認という厳格な機会を経て新しい市政がスタートしたのだという自覚に立って、多選の問題はもとより、心を新たに六期目の課題に取り組んでまいりたいと思います。

ません。ただ、総合計画の推進にあたり、こころみさんからも、一つ了解しておいていただきたいのは、最近の市内における地域開発、特に企業立地の動向、そういうものを十分見定めていかなければなりません。

それと同時に、新幹線の新潟大宮間の営業は、五十七年の春に決定しており、北陸新幹線も

地方の時代に適応した市政を展開

「地方の時代」に関する問題につきましては、昨年十一月、全国市長会から「全国百八十七市長からの訴えと提言」という冊誌で、私どもの考えを提起していますが、大局的に見て、政治、経済、文化の各々の分野におけるこれまでの過度の集権と画一への批判と反省から出発して、地方、地域を土台として、それぞれの社会システムを自治分権、参加（個性）の方向に改めていくべきだとする点について

五十六年度から工事路線に昇格しております。さらに、高速自動車道の関係では、五十六年度中に北陸道が柏崎まで、関越道が越後川口まで開通、五十八年には全線開通という日程が、具体化しております。

こういう高速時代への対応や、先程もふれました現在の市内における企業立地の状況などを合わせて考えてみますと、現在の土地利用計画も早急に再検討してみなければなりません。

それから現在、農政課で一生懸命策定に取り組んでおります第三期の農業振興計画、あるいは各地域の市政懇談会の中で、できていない問題なども含めて、総合計画の中で見直すものがあるとするれば、早急に見直しを行いながら、推進していかねばならないと考えます。

では、ほぼ共通の問題意識が全国に広がっているようです。近年、全国的に実にさまざまな動きがみられますが、とりわけ心強いのは、政党的動向であり、昨年衆参同時選挙に臨んだ各政党的政策、方針にはいづれも共通して、自治と分権へ向けての政治理念が力強くうたわれていたことでもあります。

私はこうして政党的動向を心から歓迎し、深く敬意を表し、それが単に選挙のための一時的ス

ローガンではないことを期待するものであります。現実の市政推進の面で、痛切に感じています。現在の諸制度、あるいは行政面での状況をみてみますと、我々の推進しようとする行政が、都合のいいように中央でコントロールされています。都合によっては、あつちにも向かなければならぬし、こつちにも向かなければならぬ。このような現状の中で、これを本物の「地方の時代」にするための対策——これを六期目の一つの課題として、全力をつくして立ち向かってみたいと思っております。

最後に「地方の時代」にふさわしい自主性と特色のある市政の展開」に関連して、今後の市政推進上、重要なポイントになると思われる行政改革について述べさせていただきます。社会、経済の発展にともない、自治体としての市がやるべき仕事は、これからも増え続けるでしょう。これに対し「安上がり行政論」を採用し、総花的な行政を展開して見ますと、自治行政の存在基盤を崩すことになさぬかたがたです。

私は孫や子に誇れる白根市の建設を、めざす使命が課せられています。この意味で私は必要を仕事には、今後とも思いきって積極的に取り組めます。しかし、市民の血税である予算をむだづかいするわけにはいきません。一方では必要な施策

に予算を惜しまぬことと同時に、やはり他方では不要不急の事業を大胆に見直すことが求められます。行政が土地の乱開発同様、スプロール状に広がっていくようなこと——いわゆる行政の自己膨張傾向に対しては、絶えず歯止めをかけていく必要があります。

私は行政の長であると同時に、議員のみならず同様に、市民を代表する政治家でもあります。必要な指導力を発揮し、行政にも生産性を取り入れ、行政体質の改善を一步一步進めていくことと決意いたしております。

同時に、職員参加の充実、職員研修制度の充実など、管理体制を前向きな方向にも改善を進めます。特に市民や県の部課だけでなく、国の各官庁、自治体間、あるいは業者との間でも、折衝と交流の機会が多くなることとが予想されますので、職員の「涉外能力」を高めていくことが、重要であると考えます。

最後の決め手は、なんといつても「人間」であります。「地方の時代」にふさわしい、たくましく有能な人材を育てるために、今後とも一層の工夫をこらしていくことが、私の重要な任務の一つであると考えています。以上、六期目に臨む私の自信の一端を述べさせていただきます。私はこのたびの選挙を通じて、本当に「ありがたい」という気持ちと同時に、白根市のすばらしさを実感いたしました。

施政方針

予算編成に厳しい経済と財政事情

一九八〇年代の幕があけて、二年目を迎える昭和五十六年度は、国の内外はもとより、地方自治体にとりましても、引き続き先の見通しの極めて難しい情勢下であります。

一九八一年の日本を含めた世界経済の見通しにつきましては全体として今年の経済は、第二次石油ショック後の調整過程が、まだ続くものと思われ、

この調整過程は、第一次石油ショック後のそれにくらべ、景気の落ち込みは少ないが、回復の弾力性が弱い感じであり、

そしてこの中で日本経済だけは、相対的に良いと見られています。が、ほかが悪いために、とりわけ一九八一年前半期は、日本経済をとりまく国際環境は、厳しいものと予想しています。

今日のわが国の経済は、本年一月二十六日閣議決定された、政府の経済見通しによると、五十六年度のわが国の経済は、物

白根市特有の温い人情、肥沃な土地を中心に豊かな遺産とエネルギーが、未来に向けて生かされることを待っていることを感じます。この白根市の恵まれた可能性をくみつき、白根市らしい行政を展開し、「健康で安全な人

間性豊かな社会、文化の創造ある、調和のとれた白根市」の建設のために、私は満身の力をこめて、職責を果たしてまいりたいと存じます。ここに議員各位のご指導、ご協力を、六たびお願い申し上げます。次第であります。

物の沈静化にともなう個人消費の伸びと、民間投資の伸びに支えられて、実質の成長率は五十五年度の四・八％よりも高い五・三％程度となるものと見込まれております。

物価については、海外要因による物価上昇圧力が、減退することなどから卸売物価上昇率が下がるものと見込まれ、消費者物価の上昇率も、前年度の七％から、五・五％になるものと見込まれております。

物価の沈静化、鉱工業生産の若干の伸び、輸出入の鈍化などから、五十六年度の国民総生産は、二百六十四兆八千億程度となり、名目の成長率は九・一％程度、実質の成長率は五・三％程度となるものと見込まれ、わが国経済は、内需を中心とした中長期的な安定成長路線に、定着していくものと期待されています。

五十六年度の国の予算は、財

政再建を最重要の目標として、編成された結果、対前年比九・九％増の四十六兆七千八百八十一億円となり、二十二年ぶりに一桁台の伸びに抑えられています。歳入の内訳をみますと、公債金収入は前年度より二兆円減額し、十二兆二千七百億円が見込まれ、歳入における公債依存度は、前年度の三三・五％から二六・二％に下がりました。租税などは、自然増収の上に、増税による増収額として、前年度の四倍近い一兆三千八百三十億円が見込まれた結果、総額は三十二兆二千八百四十億円と、ほぼ前年度と同程度の伸び（二・二％増）が見込まれています。歳出関係では、公共事業の伸び率が、前年度に引き続き、ゼロに抑えられたことは、まちづくりや地域整備計画の遂行に、齟齬をきたす団体も生ずるおそれがあります。

このため公共事業を補完し、あるいはこれにかわるべき役割が期待され、地方単独事業に対する住民の要求が、一層強まるものと思われ、

福祉関係費や文教関係費でも全体的に国の新規施策が、厳しく抑えられていますので、地方の独自の施策を求める声が強まるものと思われ、

なお、都市財政に大きな影響のある小中学校危険建物の改築事業にかかる、国庫補助対象範囲の緩和措置は、継続されるこ



お年寄りには健康で安らぎのある福祉をお届けします